

# 平成26年度 事業報告書

(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)

学校法人 藤ノ花学園

# 学校法人藤ノ花学園 平成26年度 事業報告書

(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)

## 1 法人の概要

### 1 建学理念・教育目標

藤ノ花学園の建学の精神である「誠をもって勤儉譲を行え」を基本に、学園の教育の基本である実践的教育の充実向上を図る。学生生徒へのきめ細かい働きかけを通して学力や職業的能力の向上とともに人間的な成長を促す。

大学・短期大学においては建学の精神を現代に活かし、次世代社会の担い手となる創造性豊かな人材を育成することを通して地域社会に貢献し、地域密着型の大学として、この地域での存在感を高めることを目標とする。

高等学校においては建学の精神に則り、堅実な女子育成を社会的使命と考え、学力のみならず新しい時代に対応できる教養、豊かな感性を身につけた「バランスのとれた現代女性」の育成を目標とする。

### 2 法人の沿革

明治35年	豊橋裁縫女学校設立
昭和6年	校名を豊橋高等裁縫女学校と改称
昭和10年	校名を豊橋高等家政女学校と改称
昭和21年	校名を豊橋藤花高等女学校と改称
昭和23年	学制改革により校名を藤ノ花女子高等学校と改称
昭和39年	藤ノ花女子高等学校 食物科開設
昭和58年	豊橋短期大学開学
平成8年	豊橋創造大学開学 豊橋短期大学を豊橋創造大学短期大学部に名称変更
平成10年	藤ノ花女子高等学校家政科を生活情報科に名称変更
平成12年	豊橋創造大学大学院 経営情報学研究科開設
平成14年	豊橋創造大学短期大学部 専攻科福祉専攻開設 創立100周年記念式典挙行
平成18年	豊橋創造大学 リハビリテーション学部 理学療法学科開設 豊橋創造大学 情報ビジネス学部 キャリアデザイン学科開設
平成21年	豊橋創造大学 リハビリテーション学部を保健医療学部 に名称変更 豊橋創造大学 保健医療学部 看護学科開設
平成22年	豊橋創造大学大学院 健康科学研究科開設
平成24年	豊橋創造大学 経営学部 経営学科開設
平成26年	豊橋創造大学短期大学部 専攻科医療情報専攻開設

### 3 設置する学校・学部・学科等

#### (1) 豊橋創造大学

- 大学院 経営情報学研究科 起業・経営情報専攻
- 大学院 健康科学研究科 健康科学専攻 (平成22年4月開設)
- 情報ビジネス学部 キャリアデザイン学科 (平成24年度より募集停止)
- 経営学部 経営学科 (平成24年4月開設)
- 保健医療学部 理学療法学科
- 保健医療学部 看護学科 (平成21年4月開設)

- (2) 豊橋創造大学短期大学部  
 幼児教育・保育科、キャリアプランニング科  
 専攻科 福祉専攻、医療情報専攻

- (3) 藤ノ花女子高等学校  
 普通科、生活情報科、食物科

4 学部・学科等の定員、学生数等の状況（平成26年5月1日現在）

豊橋創造大学

学部	学科〔専攻〕	入学定員	入学者数	総定員	在学者数	卒業者数
経営	経営	76	28	236	89	—
情報ビジネス	キャリアデザイン	—	—	84	72	46
保健医療	理学療法	60	57	240	257	54
	看護	80	92	320	359	91
計		216	177	880	777	191
大学院	起業・経営情報	15	2	30	5	5
	健康科学	6	5	12	15	2

豊橋創造大学短期大学部

学科〔専攻〕	入学定員	入学者数	総定員	在学者数	卒業者数
幼児教育・保育科	100	113	200	206	95
キャリアプランニング科	130	59	260	135	67
計	230	172	460	341	162
専攻科・福祉専攻	20	17	20	17	8
専攻科・医療情報専攻	15	1	15	1	—

藤ノ花女子高等学校

学科	入学定員	入学者数	総定員	在学者数	卒業者数
普通科	450	108	1350	309	117
生活情報科	100	182	300	510	184
食物科	100	77	300	213	76
計	650	367	1950	1032	377

5 卒業生の進路状況（平成26年3月卒業生）

豊橋創造大学

学部・学科	卒業者数	就職希望数	就職希望率	就職決定数	就職決定率
情報ビジネス学部・キャリアデザイン学科	46	39	84.8%	37	94.9%
保健医療学部・理学療法学科	54	50	92.6%	50	100.0%
保健医療学部・看護学科	91	87	95.6%	87	100.0%
計	191	176	92.1%	174	98.9%

### 豊橋創造大学短期大学部

学 科	卒業生数	就職希望数	就職希望率	就職決定数	就職決定率
幼 児 教 育 ・ 保 育 科	95	77	81.1%	77	100.0%
キャリアフロンティック科	67	63	94.0%	62	98.4%
専攻科福祉専攻専攻科・福祉専攻	8	8	100.0%	8	100.0%
計	170	148	87.1%	147	99.3%

### 藤ノ花女子高等学校

卒業生数	大学進学者数	短大進学者数	専門学校進学者数	就 職 者 数	その他
377	38	83	84	150	22

## 6 役員・教職員の人数（平成26年5月1日現在）

### (1) 役 員

理事 7人（うち、理事長1人）、 監事 2人、 評議員 15人

### (2) 教 員

#### 豊橋創造大学

	学長 (教授)	専 任						非常勤
		教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	計	
経 営 学 部	1	8	4	0	0	0	12	39
情報ビジネス学部								
保健医療学部		19	6	8	10	8	51	
計	1	27	10	8	10	8	63	39

#### 豊橋創造大学短期大学部

	専 任						非常勤
	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	計	
幼児教育・保育科	6	3	2	1	1	13	38
キャリアフロンティック科	3	4	2	0	0	9	
計	9	7	4	1	1	22	38

#### 藤ノ花女子高等学校（校長を含む）

	専 任					非常勤
	教 諭	助教諭	講 師	助 手	計	
全 日 制 課 程	49	0	0	0	49	34

### (3) 職 員

#### 豊橋創造大学

区 分	人 数
専 任	21
非 常 勤	13
計	34

#### 豊橋創造大学短期大学部

区 分	人 数
専 任	11
非 常 勤	3
計	14

#### 藤ノ花女子高等学校

区 分	人 数
専 任	14
非 常 勤	1
計	15

## 2 事業の概要

1 当期に行った主な事業の概況は、以下の通りである。

### 豊橋創造大学／豊橋創造大学短期大学部

建学の精神を現代に活かし、次世代社会の担い手となる創造性豊かな人材を育成することを通して地域社会に貢献し、本学の存在感を高めることを目標とし、当期は「第1次中期計画」に基づき以下のような事業に取り組んだ。

#### (1) 教育研究、学生支援

社会から、大学・短大での学習の成果が問われている事実を踏まえ、一つ一つの授業科目での学習の目標を確実に達成するための授業の改善を図ると共に、各学部学科のカリキュラム全体を通してどのような能力を育成できるのかを点検し改善を図るべく、大学・短期大学部合同FD委員会が統括して「学生による授業評価アンケート」「FD講演会」「公開授業」他のFD諸活動に取り組んだ。また当期も多く多くの学生が各学会において研究発表等を積極的にを行い、表彰対象となる等の実績も残すことができた。保健医療学部看護学科においては、次年度より助産師の課程を再開するための教育課程改訂他、諸準備に取り組んだ。

一方、豊かな人間性を育むためには、学生の授業以外での学校生活が充実していることが重要であるとの認識に立ち、学生支援活動を充実させるため。学生満足度調査を実施し、学生の意識、学校への要望他について調査・分析を行った。また経済環境が厳しい中、学生に対する就学支援の充実を図るべく、姉妹校からの入学者への奨学生制度の拡大を行った。

また大学経営学部・保健医療学部、短期大学部キャリアプランニング科において保護者会を実施し、大学への親近感を高められるよう、懇談を通しての保護者への情報提供、要望等の聴取等に取り組んだ。

#### (2) 就職支援、キャリア教育

学生の就職に対する支援の充実を図るべく、卒業生就職アンケート、学生就職満足度調査を実施し、集計・分析を行った。また就職ガイダンスの充実とともに、各種適性テスト、SPI 模擬テスト、自己分析・自己PR講座、論作文対策テスト等を実施し、学生の自己理解や基礎能力育成に取り組んだ。さらに各学部学科においてキャリア教育関連科目の充実とともに、公務員試験対策講座、各種国家試験対策講座、模擬試験他を実施し、グループ指導や個別指導によるきめ細かい支援を行った。

#### (3) 「地域産業界連携教育力改革プロジェクト事業」への取り組み

文部科学省「産業界のニーズに対応した教育改善・充实体制整備事業」において本学を含む中部圏の23大学が連携して取り組む「中部圏の地域・産業界との連携を通じた教育改革力の強化」が平成24年度に選定され、本学では大学及び短期大学部において『地域産業界連携教育力改革プロジェクト事業』として、当年度は複数回にわたる体系的な「メンタルタフネス講座」の実施、各ゼミ単位での「地域企業連携プロジェクト」、ipadを利用した「ユビキタスキャンパス」、バーチャル人事体験等を盛り込んだ「自己理解促進プログラム」、学生・連携大学・地元企業を含めた3者間協働による「インターンシップ」等の事業に取り組んだ。なお、当年度より同事業のテーマB「インターンシップの取組拡大」にも採択され、中部圏における産学連携教育の推進と普及への取組の充実に向けての準備を行った。また、FD活動との連携による各事業の教育効果測定、教育方法の改善等の制度確立を進めるための教育力向上研修会も実施した。

#### (4) 地域貢献・地域連携

当年度も本学では、地域の企業・医療・福祉関係者や一般の方、保護者等に向けての情報発信、地域貢献、地域連携強化に取り組み、まず大学全体では、大学創立20周年記念プレ企画として『舞の海秀平氏講演会「可能性への挑戦」』を開催した。

保健医療学部理学療法学科では豊橋市教育委員会連携講座「市民大学トラム・生活について考えよう～あなたは豊かな生活を送っていますか～」に取り組み、全4講座を実施した。また、豊橋市、豊橋市医師会他の後援による一般市民対象、参加無料の「理学療法学科と特定研修施設との連携講座」を全4講座、及び「スポーツ傷害予防教室」を開講した。また同学科では「健康関連情報提供 公開講座」、さらに研修施設、在学生及び卒業生が参加し「SOZO Project2015+ One Stepによるコラボレーション講演会」を開催した。

大学院経営情報学研究科では、地域の4企業からの寄付・協力による社会人向け寄附講座「SOZO 起業塾（第6期）」を開講し、受講者による「ビジネスプラン発表会」において、新ビジネスのプレゼンテーションを行った。

短期大学部においては公開講座「SOZOふれあいワークショップ2015」「紅茶セミナー」「介護職員初任者研修」を開講し、またキャリアプランニング科においては公開講座「くらしを考え・楽しむ」（全3回）を開講した。なお当年度も幼稚園教諭免許状を有する現職教員等を主な対象者として教員免許状更新講習を実施した。

#### **(5) 学生による主体的活動の支援**

創造性豊かな次世代の人材の育成の一環として、夢やアイデアに果敢に挑戦する学生の主体的活動支援を目的に「創造性を育む学生プロジェクト」を学生から公募し、当年度に採択されたプロジェクトは、専攻科福祉専攻学生の「難病の子どもと家族の夢つなぎ隊」、情報ビジネス学部学生の「豊橋うどんプロジェクト」の各企画で、大学からの助成金を活かし活動し、年度末に活動報告会を実施した。なお平成22年度に当事業に採択された保健医療学部看護学科学学生による病院を訪問して行う「クリスマスキャロル」は、学生たちの間で先輩から後輩へと受け継いでいきたい事業としての認識も芽生え、継続して実施していくこととなり、当年度も多数の学生が参加して実施された。

また経営学部においてはプロジェクト実習の一環として、学生による店舗「SOZO SOCKS STATION」の開設・運営への支援を行った。また、ビジネスコンテスト等への学生の参加も引き続き支援を行い、当年度は「知的BOOKS パフォーマンスイベント ビブリオバトル ～30年後の浜松人に伝えたい一冊～」において、学生部門の「チャンプ賞」を受賞した。

#### **(6) 高大連携事業**

高大連携事業に積極的・戦略的に取り組み、姉妹校はもとより、地域の公立・私立の多くの高等学校との連携事業を行った。当年度は東三河・浜松地区高大連携協議会との連携事業として「ラーニングフェスタ2014」を本学を会場として実施し、2,350名の高校生が参加した。また、あいち学びネットとの連携事業にもフォーラムへの参加等、積極的に取り組んだ。さらに「高校生のための公務員試験対策講習会」を春・夏・冬休みにそれぞれ開講し、公務員試験受験を希望する地域の高校生の支援を行った。

#### **(7) 施設・設備の充実**

当年度は大講義室空調改修、学修スペース拡張ならびにカフェ新設、防災倉庫新設、体育・文化ホール一階改修工事等を行い、学生にとってより快適に過ごせるキャンパス環境の形成・充実に取り組んだ。

建学の精神に則り、堅実な女子育成を社会的使命と考え、学力のみならず新しい時代に対応できる教養、豊かな感性を身につけた「バランスのとれた現代女性」の育成を目標とし、当期は以下のような事業に取り組んだ。

### (1) 充実した進路指導の実践

進路意識の育成・希望進路実現のための「土曜講座の充実」や「地元事業所との連携強化」、「SPI対策講座」や「集団面接指導」の強化等、充実した進路指導を実践し、こうした取組みの結果と「堅実な女子育成を通して地元から信頼される人づくり」を目指す本校のマナー教育をはじめとした特色ある人材育成の成果が評価されて地元事業所の高い信頼を受け、全国的には依然として高校生にとって厳しい雇用環境の中、当年度も内定率100%の高い就職率を達成した。

進学指導面では希望者が急増してきた看護・医療系希望者への指導体制の充実や、姉妹校との連携強化にも取り組み、さらに朝学習・帰り学習等の基礎学力、文章力、面接ほか各種対策のための指導を行い、多方面の大学・短大・専門学校に多数の合格実績を出すことができた。

### (2) 地域・社会への貢献

当年度における参多難会のボランティア活動（善意フェスティバル、善意なべ募金、各種施設訪問活動等）参加者は延べ1,163名に上り、また文化部による中学校文化祭や地域の催しへの参加、運動部による各中学校へ出張しての実技指導や各協会からの依頼による指導など、地域・社会への貢献に努め、高い評価を得た。

### (3) 施設・設備の充実

当年度は、生徒用教室ロッカーの更新、アリーナ放送設備の更新、グラウンド行事用テントの購入等を行い、より快適な学習環境の形成・充実に取り組んだ。

### (4) 各種部活動・資格取得等実績

本校では教育活動の一環として、挨拶などのマナーの定着、継続力・忍耐力等の習得と人間力向上のため各種部活動の奨励を行っているが、当年度は日本拳法部、マーチングバンド部、バレーボール部、剣道部、陸上競技部、箏曲部、コンピュータ部、書道・ペン習字部、演劇部、写真部等において県大会以上レベルでの活躍が目覚しかった。特に日本拳法部、マーチングバンド部、バレーボール部、陸上競技部が全国大会、箏曲部が全国プレ大会に出場し、優秀な成績を残すことができた。

また即戦力となる実力の高い人材育成に取り組んだ成果として、ワープロ、情報処理、電卓、漢字、書写、色彩等の各種検定試験において多数の合格者を出すことができた。

### 3 財務の概要

#### 【 資金収支計算書 】

#### 資金収支計算書

平成 26 年 4 月 1 日から

平成 27 年 3 月 31 日まで

<総括表>

(単位 円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	1,938,472,000	1,860,109,580	78,362,420
手数料収入	48,800,000	43,918,620	4,881,380
寄付金収入	1,150,000	3,650,000	▲ 2,500,000
補助金収入	778,730,000	691,346,068	87,383,932
国庫補助金収入	363,630,000	262,118,000	101,512,000
地方公共団体補助金収入	415,100,000	429,228,068	▲ 14,128,068
学術研究振興資金収入	0	0	0
資産運用収入	50,670,000	43,725,422	6,944,578
資産売却収入	0	63,767,097	▲ 63,767,097
事業収入	2,500,000	2,209,500	290,500
雑収入	74,000,000	56,724,791	17,275,209
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	398,200,000	343,355,000	54,845,000
その他の収入	108,057,476	239,354,079	▲ 131,296,603
資金収入調整勘定	▲ 443,555,000	▲ 432,917,780	▲ 10,637,220
前年度繰越支払資金	2,021,662,885	2,021,662,885	0
収入の部合計	4,978,687,361	4,936,905,262	41,782,099
支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	1,732,600,000	1,660,398,486	72,201,514
教育研究経費支出	513,285,000	476,238,296	37,046,704
管理経費支出	251,510,000	228,395,689	23,114,311
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	150,000,000	125,656,272	24,343,728
施設関係支出	117,610,000	95,308,394	22,301,606
設備関係支出	66,340,000	73,880,196	▲ 7,540,196
資産運用支出	13,000,000	129,943,117	▲ 116,943,117
その他の支出	110,065,235	138,977,803	▲ 28,912,568
[予備費]	(17,100,000)		
	15,700,000		15,700,000
資金支出調整勘定	▲ 103,320,346	▲ 93,403,246	▲ 9,917,100
次年度繰越支払資金	2,111,897,472	2,101,510,255	10,387,217
支出の部合計	4,978,687,361	4,936,905,262	41,782,099



資金収支内訳表

平成26年4月1日から

平成27年3月31日まで

収入の部

<総括表>

(単位 円)

科目 \ 部門	豊橋創造大学	豊橋創造大学短期大学部	藤ノ花女子高等学校
学生生徒等納付金収入	1,114,830,000	381,819,500	363,460,080
手数料収入	21,814,595	8,363,075	13,740,950
寄付金収入	3,650,000	0	0
補助金収入	193,946,056	69,613,160	427,786,852
国庫補助金収入	192,741,000	69,377,000	0
地方公共団体補助金収入	1,205,056	236,160	427,786,852
学術研究振興資金収入	0	0	0
資産運用収入	1,232,731	1,152,636	1,241,552
資産売却収入	0	0	0
事業収入	360,000	1,849,500	0
雑収入	7,630,983	4,296,764	44,797,044
借入金等収入	0	0	0
計	1,343,464,365	467,094,635	851,026,478

支出の部

<総括表>

科目 \ 部門	豊橋創造大学	豊橋創造大学短期大学部	藤ノ花女子高等学校
人件費支出	746,945,498	305,499,251	600,776,456
教育研究経費支出	267,157,622	111,405,311	97,675,363
管理経費支出	116,382,599	75,864,019	27,638,487
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	125,656,272
施設関係支出	71,905,323	23,403,071	0
設備関係支出	58,735,780	8,183,947	6,960,469
計	1,261,126,822	524,355,599	858,707,047

## 【 消費収支計算書 】

### 消費収支計算書

平成 26 年 4 月 1 日から

平成 27 年 3 月 31 日まで

<総括表>

(単位 円)

消費収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	1,938,472,000	1,860,109,580	78,362,420
手数料	48,800,000	43,918,620	4,881,380
寄付金	1,650,000	5,770,408	▲ 4,120,408
補助金	778,730,000	691,346,068	87,383,932
国庫補助金	363,630,000	262,118,000	101,512,000
地方公共団体補助金	415,100,000	429,228,068	▲ 14,128,068
学術研究振興資金	0	0	0
資産運用収入	50,670,000	43,725,422	6,944,578
資産売却差額	0	0	0
事業収入	2,500,000	2,209,500	290,500
雑収入	74,000,000	60,963,206	13,036,794
帰属収入合計	2,894,822,000	2,708,042,804	186,779,196
基本金組入額合計	▲ 135,250,000	▲ 104,166,507	▲ 31,083,493
消費収入の部合計	2,759,572,000	2,603,876,297	155,695,703
消費支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費	1,752,100,000	1,677,982,274	74,117,726
教育研究経費	804,007,249	811,916,613	▲ 7,909,364
管理経費	268,663,312	244,299,343	24,363,969
借入金等利息	0	0	0
資産処分差額	0	3,159	▲ 3,159
徴収不能額	0	0	0
[予備費]	(18,300,000) 14,500,000		14,500,000
消費支出の部合計	2,839,270,561	2,734,201,389	105,069,172
当年度消費支出超過額	79,698,561	130,325,092	
前年度繰越消費支出超過額	1,177,080,528	1,177,080,528	
基本金取崩額	0	0	
翌年度繰越消費支出超過額	1,256,779,089	1,307,405,620	

消費収支内訳表  
平成26年4月1日から  
平成27年3月31日まで  
消費収入の部

<総括表>

(単位 円)

部 門 科 目	豊橋創造大学	豊橋創造大学短期大学部	藤ノ花女子高等学校
学生生徒等納付金	1,114,830,000	381,819,500	363,460,080
手数料	21,814,595	8,363,075	13,740,950
寄付金	4,887,639	170,550	712,219
補助金	193,946,056	69,613,160	427,786,852
国庫補助金	192,741,000	69,377,000	0
地方公共団体補助金	1,205,056	236,160	427,786,852
学術研究振興資金	0	0	0
資産運用収入	1,232,731	1,152,636	1,241,552
資産売却差額	0	0	0
事業収入	360,000	1,849,500	0
雑収入	7,630,983	4,296,764	49,035,459
帰属収入合計	1,344,702,004	467,265,185	855,977,112
基本金組入額合計	▲ 127,854,972	▲ 11,734,049	35,422,514
消費収入の部合計	1,216,847,032	455,531,136	891,399,626

消費支出の部

<総括表>

部 門 科 目	豊橋創造大学	豊橋創造大学短期大学部	藤ノ花女子高等学校
人件費	757,747,881	312,280,656	600,776,456
教育研究経費	443,802,320	186,635,940	181,478,353
管理経費	121,914,386	79,349,902	32,695,438
借入金等利息	0	0	0
資産処分差額	2,000	1,159	0
徴収不能額	0	0	0
消費支出の部合計	1,323,466,587	578,267,657	814,950,247

【 貸借対照表 】

貸 借 対 照 表

平成 27 年 3 月 31 日

<総括表>

(単位 円)

資産の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定資産	14,618,457,458	14,831,704,948	▲ 213,247,490
有形固定資産	8,729,291,686	8,909,567,818	▲ 180,276,132
その他の固定資産	5,889,165,772	5,922,137,130	▲ 32,971,358
流動資産	2,287,036,965	2,269,917,153	17,119,812
資産の部合計	16,905,494,423	17,101,622,101	▲ 196,127,678
負債の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定負債	482,090,786	563,574,376	▲ 81,483,590
流動負債	528,048,555	616,534,058	▲ 88,485,503
負債の部合計	1,010,139,341	1,180,108,434	▲ 169,969,093
基本金の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
第1号基本金	14,240,493,877	14,136,327,370	104,166,507
第2号基本金	2,797,266,825	2,797,266,825	0
第3号基本金	0	0	0
第4号基本金	165,000,000	165,000,000	0
基本金の部合計	17,202,760,702	17,098,594,195	104,166,507
消費収支差額の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
翌年度繰越消費支出超過額	1,307,405,620	1,177,080,528	130,325,092
消費収支差額の部合計	▲ 1,307,405,620	▲ 1,177,080,528	▲ 130,325,092
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	16,905,494,423	17,101,622,101	▲ 196,127,678

## 【 財務比率表 】

学校法人藤ノ花学園 財務比率表

分類	区 分		26 年度	25 年度	24 年度	23 年度	22 年度	
	※	比率 算式(×100)						
消費 収支 計算書	▽	人件費比率	人件費／帰属収入	62.0%	59.4%	61.3%	63.1%	62.5%
	▽	人件費依存率	人件費／学生生徒等納付金	90.2%	90.8%	90.0%	96.4%	96.6%
	△	教育研究経費比率	教育研究経費／帰属収入	30.0%	27.3%	26.6%	28.4%	31.5%
	▽	管理経費比率	管理経費／帰属収入	9.0%	8.3%	8.8%	8.8%	8.2%
	▽	借入金等利息比率	借入金等利息／帰属収入	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	▽	消費支出比率	消費支出／帰属収入	101.0%	95.0%	96.8%	100.3%	102.3%
	▽	消費収支比率	消費支出／消費収入	105.0%	105.7%	106.8%	110.2%	114.7%
	～	学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金／帰属収入	68.7%	65.4%	68.1%	65.5%	64.7%
	△	寄付金比率	寄付金／帰属収入	0.2%	0.3%	0.1%	0.1%	0.4%
	△	補助金比率	補助金／帰属収入	25.5%	27.5%	24.6%	27.0%	28.2%
	△	基本金組入率	基本金組入額／帰属収入	3.8%	10.1%	9.4%	9.0%	10.8%
	～	減価償却費比率	減価償却額／消費支出	12.9%	12.6%	10.7%	11.5%	11.6%

※△…高い値が良い   ▽…低い値が良い   ～…どちらともいえない

学校法人藤ノ花学園 財務比率表

分類	区 分		26 年度	25 年度	24 年度	23 年度	22 年度	
	※	比率 算式(×100)						
貸借 対照表	▽	固定資産構成比率	固定資産／総資産	86.5%	86.7%	86.5%	87.3%	87.8%
	△	流動資産構成比率	流動資産／総資産	13.5%	13.3%	13.5%	12.7%	12.2%
	▽	固定負債構成比率	固定負債／総資金	2.9%	3.3%	3.9%	4.8%	5.9%
	▽	流動負債構成比率	流動負債／総資金	3.1%	3.6%	3.6%	4.4%	3.9%
	△	自己資金構成比率	自己資金／総資金	94.0%	93.1%	92.5%	90.8%	90.3%
	△	消費収支差額構成比率	消費収支差額／総資金	-7.7%	-6.9%	-7.8%	-6.7%	-5.2%
	▽	固定比率	固定資産／自己資金	92.0%	93.2%	93.5%	96.1%	97.2%
	▽	固定長期適合率	固定資産／自己資金＋固定負債	89.3%	90.0%	89.7%	91.3%	91.3%
	△	流動比率	流動資産／流動負債	433.1%	368.2%	377.1%	289.9%	315.4%
	▽	総負債比率	総負債／総資産	6.0%	6.9%	7.5%	9.2%	9.7%
	▽	負債比率	総負債／自己資金	6.4%	7.4%	8.1%	10.1%	10.8%
	△	前受金保有率	現金預金／前受金	612.1%	546.5%	592.2%	502.2%	462.2%
	△	退職給与引当預金率	退職給与引当特定預金(資産)／ 退職給与引当金	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

※△…高い値が良い   ▽…低い値が良い   ～…どちらともいえない

## 【概況説明】

平成26年度の消費収支状況等を分析してみると、前年度に比して帰属収入に対する学生納付金の比率が若干増加したものの、補助金収入の比率がやや減少した。支出面では帰属収入に対する人件費の比率がやや増加し、また各部門においてきめ細かい予算管理に取り組み、種々の経費節減努力を行ったが、教育経費・管理経費比率ともに前年度よりやや増加した。その結果、基本金組入れ前の帰属収支、また基本金組入れ後の消費収支において支出超過となった。また、資金収支では次年度繰越支払資金を前年度より約8千万円増加させることができた。今後も学園全体で学生募集を順調に進めるとともに、より一層の経費節減努力等も引き続き行うことで、次年度以降も収支比率を悪化させることなく、好転していけるよう努力していく必要がある。

また貸借対照表には負債額が計上されているが、これは高等学校において例年適用を受けている愛知県私学振興事業財団の授業料軽減貸付金の償還に要する財源として愛知県から全額補填されるものであり、実質的には負債額ゼロのため、負債比率が極めて低く、自己資金率が高いことが読み取れ、例年に引き続き全体としては健全な財政状態であるといえる。

## 4 今後の課題

近年の学園を取り巻く環境の急速な変化に対応するため、個性輝く大学・高等学校として社会に一層認知される学校づくりに一丸となって取り組むことが急務である。そのために、大学・短大においては既設学部・学科における教育内容と出口の質を公的保証し、学内外に公表できる方策の検討と、地域貢献に引き続き取り組まなくてはならない。

特に学生数確保で苦戦している大学経営学部においては、本学の立地する東三河地域及び隣接する静岡県遠州西部地域を対象として、地元大学の良さを理解してもらう努力を継続し、特に地元高等学校と連携した教育活動に力を入れる計画である。また短期大学部キャリアプランニング科においても、カリキュラム改革および学生募集戦略の新展開等に取り組みながら、引き続き入学定員を満たす努力を継続する必要がある。

高等学校においては地元の厳しい経済環境の中、東三河地区で唯一の女子校としての特色・個性により一層の磨きをかけ、継続的に社会に優秀な人材を送り出すべく努力していく必要がある。

学園全体としての総合力を高め、高等学校から大学院まで、設置するすべての教育組織の連携を密にし、また教育研究を通して広く社会に貢献し、地域での存在感を高めることで、学園の社会的認知度とブランドイメージの更なる向上を図るべく、諸改革を進めていく必要がある。

また一方、学校法人を取り巻く厳しい社会環境に対応し、将来にわたって安定した教育研究活動を推進できるよう、財政の更なる健全化を図る必要がある。